

もし、絶対にスピード違反をしない車と、運転者の意思で法定速度を超えて走れる（ただし 180 キロでリミッターがかかる）車とがあり、値段が同じなら、あなたはどちらを選びますか？

この質問を男女別に行った場合、結果に違いが現れるでしょうか。また、普通の無記名アンケートで答えてもらう場合と、子どもたちの前で「指切りげんまん」をして誓って答えてもらう場合では、回答に違いが出るのでしょうか。

スピード違反防止車の選択と社会的・心理的影響

選択肢・アンケート方式・価値観の違いがもたらすもの

もし、絶対にスピード違反をしない車と、運転者の意思で法定速度を超える（ただし 180 キロでリミッターが作動する）車があり、さらに 2024 年に EU で標準化された ISA リミッター（再加速が可能な方式を含む）を想定し、値段が同じとした場合、どちらを選ぶか——この問いは、単なる車の機能選択にとどまらず、現代社会が抱える倫理観や個人の価値観、社会的責任意識を浮き彫りにします。

1. 性別による選択傾向の違い

男女別にこの質問を行った場合、選択の傾向に違いが現れる可能性があります。一般的な調査では、男性の方が速度やパワーを重視する傾向が強い一方、女性の方が安全性や社会的ルールの遵守を重視する傾向が見られます。したがって、スピード違反を完全に防止する車を選ぶ割合は女性の方が高く、自己判断で速度制限を超える車を選ぶ割合は男性がやや多くなることが予想されます。

ただし、これは社会的な傾向に過ぎず、個人差も大きいため、“男女による違い”が決定的なものではありません。近年では、性別に関係なく安全志向や社会的責任への意識が高まっていることも考慮する必要があります。

2. アンケート方式と回答傾向

無記名アンケートの場合、回答者は素直な本音を表明しやすく、「本当はスピードを出したい」「状況によっては速度制限を超える」といった欲求が表れる傾向が強いでしょう。一方で、子どもたちの前で「指切りげんまん」をして誓うという状況では、回答者は社会的規範や教育的責任を意識しやすくなり、「模範を示さなければ」という気持ちが働くため、より安全な選択肢（絶対にスピード違反をしない車）を選ぶ比率が高まると考えられます。

このように、アンケートの設問環境や状況設定は、回答に大きなバイアスを生むことが知られています。人は見られる状況や「誓う」状況で、より社会的に望ましい行動を選びやすくなるのです。

3. 地球温暖化・SDGs12・未来の視点を加えた場合

地球温暖化、SDGs12（つくる責任 つかう責任）、そして「子どもたちの未来」をアンケートの前提として加えた場合、回答傾向はさらに変わる可能性があります。環境負荷の軽減や、持続可能な社会の実現が問われる時代において、安全かつエコな運転が求められる車を選ぶことが、「未来を守る責任」につながると感じる人が増えるでしょう。

特に「子どもたちの未来」というキーワードが加わることで、社会全体の視座が広がり、「自分の欲望」よりも「次世代への責任」、「社会全体の幸福」を優先する選択が促されるはずです。実際、環境問題やSDGsへの意識が高い層ほど、安全性や環境負荷低減機能を積極的に選ぶ傾向が強まると考えられます。

4. 結論

このように、スピード違反防止車の選択肢は、単なる個人の嗜好の問題にとどまらず、設問の提示方法や社会的・倫理的な価値観、さらには未来への責任意識によって大きく左右されるテーマです。誰が、どのような場面で、どんな価値観や社会的背景の中で選択するのか——その問い合わせが、私たち一人ひとりの考え方や社会全体の意識を映し出しているのです。